

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ブロッサムジュニア加古川尾上教室		
○保護者評価実施期間	2024年12月1日 ～ 2024年12月29日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38 (回答者数)	28
○従業者評価実施期間	2024年1月10日 ～ 2024年1月25日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2024年2月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職による専門的な支援を実施している。	作業療法士による「発達アセスメント」や言語聴覚士による「構音スクリーニング」など、専門職ならではのツールを活用し、利用者の特性に応じたきめ細かい支援を行っている。	公認心理士等の専門職を新たに配置することで、利用者に対し、あらゆる面からきめ細かい支援が可能となるので、早期に人材確保を行い配置する。
2	療育経験が豊富な職員を配置している。	専門職を含め、療育経験豊富（児童福祉業界5年以上勤務）な職員が多く、療育プログラムを提供するにあたり、経験値や引き出しが多い。	今後も新たな人材を採用をする際は、児童福祉業界における実務経験年数を考慮し、募集・採用活動を進めていく。
3	室内での活動スペースが広く、様々なプログラムを取り入れることができる。	集団療育室、小集団療育室、個別療育室（2部屋）を設けており、十分な広さがあります。また、療育内容によって部屋を使い分け、内容に応じて活動できるスペースを確保している。	利用者の特性や療育内容に応じて部屋を使い分け、活動しやすい環境作りを行う。また、広いスペースを生かして、運動療育を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が行えていない。	立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分があり、現状、加古川尾上教室において地域交流の行事は行っていない。また、地域で行われる交流行事にも参加できていない。	立地やサービス提供時間の関係上、調整が難しい部分もありますが、可能な限り、地域交流の機会を持てるように努めていく。
2	（放課後等デイサービス） 利用者は小学校低学年が中心となっている。	放課後等デイサービスの利用者は小学校低学年が中心となっており、小学校高学年以上の利用者が少ない。そのため、低学年向けの療育プログラムが中心であり、高学年に提供する療育プログラムに課題がある。	低学年向けの療育プログラムの際は、高学年の利用者には先生役や職員のお手伝いを任せするなど、療育プログラムや状況に応じた役割を与える。また、療育内容を学年別で難易度を設定する等の工夫をしていく。
3	入職から日が浅い職員が多く、関係機関や保護者とのコミュニケーションが薄い。	入職から日が浅い職員は、保護者との個別面談や担当者会議にまだ出席できていないため、保護者や関係機関との関係構築ができていない。	全職員が保護者や関係機関の担当者と早い段階で面識が持てるように、担当者会議への参加促進や情報発信の工夫を行っていく。